

子どもたち一人一人の国語の力を伸ばすには、どんな授業を考えればいいのでしょうか。  
ここでのヒントをもとに、明日からの授業にチャレンジしてください。

さあチャレンジ!

子どもを伸ばす国語授業のヒント ③

## わかりやすく、学習の見通しがもてる発問を

前青山学院大学講師 岩崎 保

どの教科においても、教師の発問で授業がスタートします。教師の発問のしかたにも個性があり、用いる言葉の選択、問いかけるときの表情、児童の反応の受け止め方などに教師の人格が表れます。児童がその人柄を受け入れ、なおかつ安心して学習を進められるよう、わかりやすく、学習の見通しがもてる発問のあり方を考えなければなりません。

### 一 活発に学習を進める発問を組み立てるために

1 児童を理解し、信じてはげます発問作り  
発問の内容が、クラス全員に的確に伝わり、解決できる自信と意欲を児童にもたせることが重要です。納得できる答えに満足し、学習の継続に喜びを表現したり、個別の支援に笑顔で応えたりする児童の存在が、確かな授業風景になります。

### 2 学習目標の達成には意図的・継続的な発問を

単元目標に向かって発問計画を設定し、毎時間の課題に沿ってわかりやすい言葉で発問します。昨日の学習の理解が今日の学習の起点となって児童の思考を継続して促し、本時の発問を解決する活力となります。発問してから児童が考える時間を保つよう心がけましょう。そして、机間指導で個別に支援してから、回答を待ちましょう。

#### 3 「確かさ・豊かさ・意見」を求める発問の違い

○「確かさ」を求める発問：叙述の内容と事実関係を明らかにし、もつとも基本的で客観的な内容の理解を確かめます。  
(例) 登場人物はだれとだれですか。

・主人公の優しさがわかる文を視写してください。

○「豊かさ」を求める発問：事実関係が明らかになったらその事柄をもとに想像しながら、さらに読み深めます。自分の経験を思い起こしたり、予想したりしながら、想像する楽しさを学習させます。

(例) 主人公が言いたかったことを吹き出しに書きましょう。  
・夜道が真っ暗になっています。この人はどんなことを考えて歩いているか、想像したことを話してください。

○「意見」を求める発問：「確かさ」や「豊かさ」の読み取りをもとに、問題意識をもって「意見や考え」を発信させます。自分の考えをまとめ、読解できた喜びを自覚させます。

(例) 主人公の生き方で、あなたがもっとも感動したのはどの場面ですか。その理由も考えて文章にまとめましょう。  
・登場人物を選んで、応援する手紙を書きましょう。

### 二 単元として構成する発問の具体例「四年」「ごんぎつね」から

発問は、常に一問多答でなければなりません。一つの発問により多くの児童が応答できることが望ましい姿です。初めの発問は、全員が答えられるよう、事実を確かめるやさしい発問から始めます。次に、登場人物の心情や人間関係、情景描写の意味づけを思考する少し難しい発問へと進めます。さらに、想像や思考を必要とする発問へと高めていきます。

#### 1 作品の導入部(1の場面)で、叙述を的確に理解して物語に関心をもたせる発問例

○今日は、「ごんぎつね」の1の場面をくわしく読んでいきましょう。この時間のめあては、「ごんは、どんなきつねかを読みとりましょう。」ということです。初めに、作者の新美南吉さんは、だからこの話を聞いたのかを確かめておきましょう。

○村の茂平というおじいさんから聞いた話です。  
○新美南吉さんが小さい子どもだったころに聞いたお話です。

○これは、昔話だと思います。

○昔話だとわかる文章がありますか。

○村とかおしろが出てくるからでしょう。

○中山のおとの様なんて言っているから、さむらいがいたころの話だと思います。

○そうですね。中山という所の昔話ですね。昔のお話ですから、想像して読むとおもしろくなりませんか。

○ちょんまげやお歯黒なんて出てきて、おもしろそうだね。

○それに、「火なわじゅう」なんて昔の鉄砲だよ。

○もつとあります。登場人物の名前が、「兵十・茂吉・弥助・新兵衛」なんて、昔の人の名前ですよ。

○では、このお話に出てくる「ごん」は、どこに住んでいましたか。

○中山から少しはなれた山の中で、しだのいっばいしげった森の中に住んでいました。

○森の中にあなをほって住んでいたなんて、頭いいよな。見つけにくいと思います。

○さて、森のあなの中に住んでいた「ごん」ですが、どんなきつねだったのですか。

○ひとりぼっちの小さきつねです。だけど、なんでお父さんやお母さん、兄弟がいないのかな。かわいそうです。

○ぼくもそう思いました。もし、みんな死んでいたのなら、すごく悲しい話だと思います。

○なるほど、そのことをほかの人はどう思いますか。

○どこかで迷子になってしまったのかもしれない。

○犬か人間に追いかけて森の中へ逃げて、一人ぼっちになったのかもしれないよ。

○いろいろなことが考えられましたね。でも、今は一人で生きていますね。そんな「ごん」はどんなきつねですか。

○夜でも昼でも、あたりの村に出て行ってはいたずらばかりする、悪いきつねだと思います。

○それだけではありません。畑のいもをほり散らしたり、菜種がらに火をつけたり、とうがらしをむしり取ったりするなんて、ひどいと思います。

○そうかあ。いたずらをするわけね。みなさんはどう思いますか。

○確かに悪いきつねだけど、何かわけがあるんじゃないかな。わたしもそう思います。一人ぼっちなので、さびしくて、むしゃくしゃしてやったように思います。

c きっと、友達がほしくて、みんなの気をひこうとしたと思う。

◎ところで、63ページの挿絵ですが、「ごん」は何をしていますか。そして、どんなことを考えていると思いますか…

2 物語の展開部(3の場面)で、主人公の心情を豊かに想像させ、物語の切なさを読み味わう発問例

◎今日は、3の場面を「ごんが何回もつぐないをした気持ちを考えよう。(板書)」というめあてで読みます。ここまで、「ごん」はどんな気持ちでつぐないをしたのですか。

- c うなぎのことも、いわしのことも、兵十にすまないと思っただけです。毎日くりや松だけを届けたのも、本当に謝りたかったからだと思います。
- c 今は、どうしたらつぐないができるのか、困っているのだと思います。兵十にわかってもらいたかったので、毎日届けたのです。
- c いわし屋のことで、盗みはいけないとわかったから、山の食べものを届けたのだと思います。
- c 物置の入り口にくりを置いたときは、「ごめんね」と心で言っただけです。
- c 5の場面、届けたものが神様のしわざになったときは、「つまらない」よりも、もっともつと困ってしまったのではないのでしょうか。



▲四下 P63の挿絵 (かすや昌宏/絵)

c 兵十は、火なわじゅうをばたりと取り落としたとき、「ごん、ごめん。知らなかった。もっと早く気づけばよかった。すまない。」と後悔していると思います

◎ありがとうございます。「ごん」と兵十の両方にみなさんの気持ちや願いがあることがよくわかりました。しっかりと読めましたね。それでは、もう一つ考えてみましょう。「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」というところなのですが、この青い煙をどう思いますか。

- c 「ごん」の命が静かに青い空に上がっていくことを表していると思います。それは、青という色があるからです。
- c 何か二人の悲しい心がこもっているように思います。
- c 細い煙に、二人の気持ちが一つになったことを表しているのではないですか。
- c 煙は、新美南吉さんが、その後のことは想像してくださいと読者に言っているように思います。



▲四下 P78・79の挿絵 (かすや昌宏/絵)

◎ここまで読んで感じて感じた気持ちも出てきましたね。3 終末部(6の場面)で、「ごんと兵十」の心のすれ違いに対する児童の思いや願いを考えさせる発問例

◎では、6の場面「ごんが兵十に火なわじゅうでうたれたこと」について、みなさんが考えたことを話してください。

- c 「ごん」は、最後まで兵十にわかってもらえなかったことを残念に思ったと考えました。それは、「ぐつたりと目をつぶったまま、うなずきました。」というところで、さびしそうに感じたからです。
- c 「ごん」は、ばたりとたおれました。」というところで、「やられたな。兵十にわかってもらえなかったのか。くやしいな。」と考えていたように思いました。
- c 「ごん」がくりや松だけを持ってきてくれたのを知っていたら、兵十は「ごん」を殺さなくてもよかったと思うので、残念です。
- ◎「ごん」は、うたれて残念だとか、くやしかったとか考えた人の意見ですね。違う意見の人はいますか。
- c わたしは少し違います。「うなずきました。」というのは「わかってくれたからいいよ。」と言っているように感じました。「しかたがないな。」と思っているのかもしれない。
- c ぼくは、「ごん」と兵十の両方ともかわいそうだと思います。「ごん」はやさしいきつねに変わったのに兵十にうたれてかわいそうだし、つぐないをしているのが「ごん」だと知らずにうたれた兵十もかわいそうです。
- c 兵十は、おつかあと「ごん」の両方をなくしてしまっただけで、かわいそうだと思います。

◎みなさんの想像や考えが活発でうれしかったです。友達の意見も参考にして、「ごん」と兵十に手紙を書いてみましょう。

三 発問するときの注意事項

発問のしかたによっては、児童がとまどったり、やる気を失ったりすることがあります。児童の反応に十分注意して、直ちに修正しましょう。

- 1 センテンスの長い発問：意味がわかりにくく、教師の一方的な授業になりやすい。
- 2 単発で思いつきのような発問：問いと答えが一問一答式になりやすく、児童の思考の広がりや失われる。
- 3 児童の答えを復唱する発問：児童の話し合いが成立せず、児童の集中力が下がる。授業時間も不経済です。
- 4 学習目標につながる発問：児童の応答に引きずられ、どこを学習しているのかわからない発問がこれに当たる。
- 5 児童に何を期待するか不明な発問：教師の要求が多すぎることで、すべての児童が理解できず意図不明な学習になる。
- 6 「ほかにありませんか」という発問：教師の期待にそぐわない答えを無視することで、児童はどう答えるか混乱してしまふ。
- 7 理解しにくい言葉の発問：地域や生活実態にそぐわない言葉、学年の発達に適合しない言葉の使用がこれに当たる。
- 8 教師が答えを準備している発問：多くの児童が答えを発表しても、教師が答えを板書することになるため、児童の思考と存在を無視した学習に陥りやすい。